みやま市バイオマスセンター

ルフラン Refrain を紹介します！

みやま市バイオマスセンター「ルフラン」は従来型のごみ処理施設とは違い、生ごみなどをバイオマス資源として循環利用するための施設です。更に、循環のまちづくりの拠点として、循環型社会などを学習、安全安心な農産物の地産地消を推進し、豊かな地域食材の提供、地域住民の皆さんが憩い、集うための機能を持った施設です。

バイオマスセンター

つくろう 資源循環の環（わ）

皆さんの生ごみ分別によりみやま市バイオマスセンター「ルフラン」が稼働し、生ごみは有機質の液肥として生まれ変わります。液肥はみやま市の田んぼや畑に散布され、お米や野菜が栽培されます。そして、そのお米や野菜が食卓に並び、みやま市に資源循環の「環」ができます。

生ごみの分別
家庭や事業所の生ごみを分別します

発酵させ液肥化
バイオマスセンターで液肥と電気を生み出します

液肥の農地還元
液肥「みのるん」は、優れた有機質の肥料として、水稲や麦の栽培に利用します

地元農産物の供給
液肥で育てた農作物を学校給食や家庭の食卓へ

資源循環の環

みやま市バイオマスセンター「ルフラン」は循環のまちづくりの拠点施設です。

みやま市バイオマスセンター「ルフラン」では、一日当たり家庭・事業系生ごみ10トン、し尿42トン、浄化槽汚泥78トンの合計130トンを受け入れ、生ごみなどを分解し、メタンガスを発生させます。発生したメタンガスを利用してコジェネ発電を行い、施設内の電力と温水として活用します。発酵後の液体は、液肥として水稲、麦、ナス、菜種、レンコン、筍などの栽培に利用します。

サテライト液肥貯留設備

みやま市長
松嶋 盛人

2011年3月11日に発生した東日本大震災における原子力発電所の事故は、日本全国で地域分散型の再生可能エネルギーを求める声の高まりの契機となりました。

みやま市では、再生可能エネルギーの導入可能性を調査し、生ごみ・し尿等のメタン発酵発電を利用した資源循環プロジェクトを選定しました。

構想開始から7年の歳月をかけ市民の皆さんのご協力により、バイオマスセンターが完成しました。

みやま市バイオマスセンター「ルフラン」は、2016年3月に廃校となった山川南部小学校の廃校活用として、校舎は視察研修室、食品加工所、カフェ、シェアオフィスとして、みやま市の目指す資源循環のまちづくりの拠点として賑わいの施設も整備いたします。

私たちがごみを分別し、資源として活用すること、地域でエネルギーや食料を作りだし、それを消費すること。そうした一人ひとりの行動が、みやまに好循環をもたらし、子どもたちのよりよい明日を築きます。

市民の皆さんと心を一つにして環境にやさしいまちづくりに取り組んでいく所存です。今後とも関係各位のご協力をお願い申し上げます。